

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社ふくし・ファーム

②事業者情報

名称：	レイモンド新三郷保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	鈴木 雄大	定員(利用人数)：	81 名
所在地：	〒 341-0012 埼玉県三郷市半田299-1	TEL	048-951-0728

③評価実施期間

令和7年7月31日（契約日）～令和8年3月26日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもの主体性と対話を重視した保育が根付いています。
3～5歳児で毎日サークルタイムを行い、行事準備や生活上のトラブルも子ども同士の対話で考える時間を設けています。あわせて、3～5歳児の計画的な異年齢合同活動（月2回程度）や2・3歳児の英語遊び・ダンスなど、年齢を越えた関わりを意図的に作っている点も特徴的です。
2. 食育・栽培活動を通じて「食」と生活を結びつける取り組みが充実しています。
毎月「世界のご飯」をテーマに各国の料理を1品取り入れ、行事食や誕生日プレートの工夫も行っています。園庭やプランターで育てた野菜をクッキング保育に使い、玄関への展示や乳児の散歩コースにするなど、栄養士とも連携しながら食への興味関心を高めています。
3. 一人ひとりへの配慮と多文化への対応が進んでいます。
育児担当制により継続的に関わる職員を定めて安心感を高めているほか、国・県基準を満たしたうえで補助職員を約5名配置し、必要なクラスに柔軟に入る体制を整えています。ベトナム人家庭を中心に外国籍家庭が多い状況を踏まえ、「日本語を母国語としない親子が利用しやすい園づくりガイドライン」を活用し、翻訳アプリやベトナム語が話せる補助職員の配置など、多文化家庭への支援も進めています。
4. 職員のやりがいや働きがいの創出に努めています。
施設目標について職員全体で話し合いを重ね、今年度は「笑顔があふれる園づくり」を掲げています。職員が楽しんで働くことが子どもの笑顔につながるという考えのもと、職員一人ひとりの「やってみたい」という思いを大切に園運営を心がけています。例えば、運動会では職員の発案により親子競技に「カード合わせ」を取り入れ、4歳児が今後訪れる予定の水族館を行き先として発表するなど、職員のアイデアを行事に反映させました。さらに、「地域交流・子育て支援・フィードバック文化・食育・SNS」の五つのテーマによるグループを新たに設け、職員が協力し合いながら取り組みを進められる体制を整えています。こうした取り組みを通して、職員のやりがいや働きがいの創出に努めています。

◇特にコメントを要する点

1. 全体的な計画・6歳卒と就学支援の連続性が十分に結び付いていません。
全体的な計画や6歳卒は法人共通フォーマットに近く、園児の具体像や地域性、小学校からのフィードバックを踏まえた書き換えには至っていません。卒園児の進学先が分散し、幼保小連絡会など自治体主導の場もないため、就学前教育と小学校との連携をどう体系化していくかが今後の課題です。
2. 対話的保育・情報共有・専門プログラムに関する研修と標準化が不足しています。
サークルタイムや子ども会議の見守り方、傾聴・ファシリテーションなどについて、法人として体系的に学ぶ研修や共通方針は十分とは言えず、職員ごとの経験に依存している面があります。ポートフォリオも「的なもの」にとどまり、音楽・英語・鍵盤ハーモニカなどのプログラムも特定職員のスキルに依存しているため、継続性と質の保証に向けた標準化が今後のテーマになります。
3. 環境面では、夏季の過ごし方やクールダウンスペースなどが模索段階にあります。
猛暑により約2か月以上園庭が使えない期間があり、ホールにビニールプールを持ち込むなど屋内の水遊び・運動遊びの工夫は検討中の段階です。また、配慮を要する子どもが一人になって落ち着けるクールダウンスペースは明確には整備されておらず、地域資源との連携もパン屋・消防署・図書館など試行錯誤の段階にあるため、環境調整と地域とのつながりを計画的に高めていく余地があります。
4. 中・長期計画については、現時点では具体的な計画が策定されていない状況です。
単年度の事業計画は園長を中心に作成し、サービス面・運営面・人材面・財務面のそれぞれについて、定性目標および定量目標を設定しています。一方で、中・長期計画については、現時点では具体的な計画が策定されていない状況です。今後の安定的な運営や将来を見据え、段階的に中・長期計画を作成していくことが望まれます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の評価を受け、当園が大切にしている「子どもの主体性と対話」を軸とした保育や、多文化家庭への支援が高く評価されたことは職員の大きな自信となりました。
 今後は、以下の課題解決を最優先に、さらなる保育の質の向上に努めます。

1. 計画の独自性と就学支援の強化 法人共通の計画を当園の地域性や子どもの実態に即したものに再構築し、小学校との実効性のある連携を具体化します。
2. 保育実践の標準化 サークルタイムや専門プログラムが、職員個々の経験に依存せず全園で高い質を維持できるよう、研修体系を整備し標準化を進めます。
3. 環境整備と中長期計画の策定 夏季の屋内活動の充実やクールダウンスペースの確保、また将来を見据えた「中長期計画」の早期策定に取り組みます。

評価で得られた気づきを改善の原動力とし、地域に信頼される園づくりに邁進してまいります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり